

挨拶

J A 福島五連会長

菅野 孝志



J A 福島五連会長の菅野でございます。

本推進大会の主催者として、開会にあたり一言ご挨拶をさせていただきます。

本日は、県内各地から本県水田農業に関わる関係者一堂、このビッグパレットふくしまに参集いただきありがとうございます。例年にも増して厳しい冬となっているとともに、新型コロナウイルス感染症の猛威はとどまる気配がみえません。

一方、水田農業をとりまく環境も未曾有の危機に瀕しています。構造的な需要減少に加え、コロナ禍による業務用需要の喪失により、令和3年産米は全国で7万haという過去最大規模の需給調整に取り組むことが必要となっており、何より現下の米流通は停滞しています。

この状況が続くならば、米価は大きく下落するとともに、生産した米が販売できず、集荷もままならなくなる可能性が現実のものとして直面することになります。

米の産出額が県全体の約4割を占める本県にとって、この状況は到底受け入れられるものではありません。

安定的米価・安定的流通を実現し、その間、麦・大豆、園芸作物等の高収益作物への転換促進、非主食用米においても飼料用米にとどまらず加工用米・輸出用米など新たな需要への転換を大胆にすすめ、生産構造を再構築していくことが必要となっています。

そのため、当面令和3年産主食用米の3,500ha削減を確実に達成し、あわせて関係者一体となって県内消費拡大の取り組みも展開します。

国・県もそのための対策を講じました、本日ここに参集した我々がそれらの対策を十分活用し、生産者に需給環境、想定される手取水準を具体的に提示しつつ推進を迅速にすすめることが求められています。

本日は、是非危機感を共有し、共通の目的に向かって確実に取り組みをすすめるための第一歩となることを祈念して私の挨拶とさせていただきます。